

大学・学部・学科・系のディプロマ・ポリシーと
授業カリキュラムマップ

平成27年12月3日

西日本工業大学 FD委員会 上條 恵右

<< 目次 >>

項目	ページ数
1. 大学	1
2. 両学部のDP（教養科目）	2
3. 工学部	4
4. 総合システム工学科	6
5. 総合システム工学科 機械工学系	7
6. 総合システム工学科 機械設計工学系	9
7. 総合システム工学科 設備保全工学系	11
8. 総合システム工学科 電気電子工学系	13
9. 総合システム工学科 知能制御工学系	15
10. 総合システム工学科 情報工学系	17
11. 総合システム工学科 土木環境工学系	19
12. デザイン学部	21
13. 建築学科	23
14. 情報デザイン学科	25
15. 教職に関係する科目のうち、教職に関する科目	27
16. 大学院工学研究科	29

<h2>西日本工業大学</h2>
<h3>建学の理念</h3>
<p>西日本工業大学は、「人間性に支えられた高度な工業技術者を広く学術の研鑽を通じて育成すること」を建学の理念とし、豊かな人間性を育み、十分な基礎学力、幅広い社会・科学等の知識を持った職業人育成に重点を置き、地域・社会から信頼され、地域・社会に貢献する大学を目指している。</p>
<h3>使命・目的</h3>
<p>「工業に関する専門の学術と一般の学芸とを教授研究し、かつ、人格の形成と陶冶を図り、もって文化の向上に寄与する」ことを使命・目的としている。</p>
<h3>教育目標・方針</h3>
<p>建学の理念に沿って、「豊かな人間性の錬成と優れた工業技術者の育成」を教育目標としている。責任感、誠実さ、協調性などの徳育に重点を置いた人間性教育を基本とし、国際社会で、職場で尊敬され、頼りにされる高度技術者の育成、未知の分野に立ち向かうことのできる気力と自信を持った技術者の育成を図る。</p>
<h3>人材養成目標（ディプロマポリシー）</h3>
<p>建学の理念に沿って、次の人材を養成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と社会人基礎力に富む技術者 ・自信・気力・創意工夫力に富む人材 ・産業界を支える自立した実務型技術者・研究者・経営者・起業家 ・地域社会、地域産業に貢献する技術者
<h3>カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)</h3>
<p>カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性、社会人基礎力を育むため、リメディアル教育、初年次教育、キャリア教育、一般教養教育及び専門基礎教育から成る全学共通の教養教育科目を配置する。 ・自信・気力・創意工夫力を高めるため各学科専門科目にゼミナール、卒業研究などの専門総合教育科目群を配置する。 ・産業界を支える技術者として基礎基本の確実な修得と応用性を高めるため、専門教育科目群を配置する。
<h3>アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)</h3>
<p>人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。</p> <p>本学は、「広く学問の研鑽を通じて人間性に支えられた高度な工業技術者を養成すること」を建学の精神として掲げ、「豊かな人間性の錬成と優れた工業技術者の育成」を教育目標とし、責任感、誠実さ、協調性などの徳育に重点を置いた人間性教育を基本姿勢としている。</p> <p>学生の受け入れに当たっては、本学の建学の精神・教育目標、教育方針をよく理解し、基礎的学力を有する学生で、学習意欲に富む学生、活力ある学生、目標達成意欲の強い学生、また、それぞれの学部を目指す目標に沿った資質向上、自己の研鑽に努める学生を、広く受け入れることとしている。</p>

両学部のディプロマポリシー(教養教育科目用)

次の能力を身につけると共に、所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修めた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

大学 育成目標	工学部	デザイン学部
・豊かな人間性と社会人基礎力に富む技術者	1) 豊かな人間性を有し倫理観、社会性に富む技術者として、目標に向かい熱意を持って自主的、継続的に取り組むことができる (関心・意欲・態度)	1) デザインが豊かな人間生活の向上にどのような影響をあたえるのかを考慮することができる。{関心・意欲・態度}
・自信・気力・創意工夫力に富む人材	2) 工学的諸問題を多面的に考え、論理的に課題解決に向けて取り組むことができる (思考・判断)	2) 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、解決するためのデザインを提供することができる(デザイン能力の修得) {思考・判断}
・産業界を支える自立した実務型技術者・研究者・経営者・起業家 ・地域社会、地域産業に貢献する技術者	3) ものづくりや環境、省エネ、少資源などに関する基礎知識を応用することができる (知識・理解)	3) 身につけたデザインの知識や多様なデザインリソースをもとに、企画・評価・提案を行い、人間社会に必要な価値を創造することができる(デザインマネジメント能力の修得) {知識・理解}
	4) 創造性と豊かな表現力を持って課題解決に向けて実用的技術・技能を活用することができる(技能・表現)	4) デザインした成果やその試行のプロセスを説明し、説得するためのプレゼンテーション能力、人間社会において必要なコミュニケーション能力を有し、協調的・自立的・継続的に行動できる。(デザインコミュニケーション能力の修得) {技能・表現}

教養教育科目のディプロマポリシー

- 1) 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 2) 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕組みを理解することができる。(思考・判断)
- 3) ものづくりや環境、デザインなどに関する基礎知識をもとに、人間社会に必要な価値を創造することができる。(知識・理解)
- 4) 課題解決に向けて、協調的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)

教養教育科目のポリシー

ポリシー: 豊かな人間性の錬成を目指す「教養」教育

①基礎力の修得

大学生に求められる常識や大学生活を送る上で必要な基礎的な知識、スキルを確実に修得する。

②幅広い教養の修得

社会生活とは何かを理解した上で、専門性を超えた様々な分野に関しての知識や仕組み、工夫に触れることで、物事の多角的な見方・捉え方を身につける。

③深い教養の修得

日常によくある現象について改めて深く見つめ直すことにより、自然や社会との関係の中での人間を深く知り、豊かな人間性の涵養を図る。

④総合的な判断力の修得

現代社会が抱える複雑多岐に亘る諸問題を学際的・国際的な観点から眺めることにより、それらに柔軟にかつ機敏に対応できる判断力を養う。

⑤主体的な進路選択能力の修得

望ましい職業観や職業に関する知識や技能を身につけることにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を体得する。

教養教育科目				学習・教育目標			
区分	科目番号	科目名	単位数	1	2	3	4
基礎スキル科目	CD101	スタートアップセミナーⅠ	1	○	○		
	CD102	スタートアップセミナーⅡ	1	○	○		
	CD001	連携講座(基礎スキル)		○	○		
総合共通科目	CE101	総合人間科学	2	○			
	CE102	総合社会科学	2	○			
	CE103	体育Ⅰ	1	○			
	CE104	体育Ⅱ	1	○			
	CE105	福岡地域学	2	○	○		
	CE106	日本国憲法	2	○			
	CE301	地域プロジェクト	2			○	○
	CE501	ものづくりと倫理	2	○		○	
	CE302	キャリアプランⅠ	1		○		○
	CE303	キャリアプランⅡ	1		○		○
	CE502	キャリアデザインⅠ	1		○		○
	CE503	キャリアデザインⅡ	1		○		○
	CE107	日本文化と社会	2	○			
	CE108	日本事情とビジネス	2	○			
	CE001	自主研究				○	○
	CE002	連携講座(総合共通)				○	○
基礎系	CF101	経営学概論	2	○		○	
	CF102	情報リテラシー	2		○		○
	CF301	コミュニティ論	2		○		○
	CF001	COCプロジェクト	2~6			○	○
語学系	CG111	英語Ⅰ	2				○
	CG112	英語ⅠS	2				○
	CG113	英語Ⅱ	2				○
	CG114	英語ⅡS	2				○
	CG306	TOEICⅠ	2				○
	CG307	TOEICⅠS	2				○
	CG303	TOEICⅡ	2				○
	CG501	英会話Ⅰ	2				○
	CG502	英会話Ⅱ	2				○
	CG105	中国語Ⅰ	2				○
	CG304	中国語Ⅱ	2				○
	CG106	韓国語Ⅰ	2				○
	CG305	韓国語Ⅱ	2				○
	CG107	日本語Ⅰ	2				○
	CG108	日本語Ⅱ	2				○
	CG109	日本語演習Ⅰ	1				○
CG110	日本語演習Ⅱ	1				○	
CG001	連携講座(専門基礎)				○	○	

工学部	
教育研究上の目的	
<p>本学の建学の理念に基づき、工学に関する理論及び技術を教授研究し、科学技術の発展や持続可能な社会形成に寄与する人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(1))</p>	
人材養成像	
<p>工学に関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得した、幅広い教養を備えた人間性豊かな高度専門職業人を養成する。(学則第2条の3(1))</p>	
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
<p>次の能力を身につけると共に、所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修めた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p>	
<p>1) 豊かな人間性を有し倫理観、社会性に富む技術者として、目標に向かい熱意を持って自主的、継続的に取り組むことができる</p>	(関心・意欲・態度)
<p>2) 工学的諸問題を多面的に考え、論理的に課題解決に向けて取り組むことができる</p>	(思考・判断)
<p>3) ものづくりや環境、省エネ、少資源などに関する基礎知識を応用することができる</p>	(知識・理解)
<p>4) 創造性と豊かな表現力を持って、課題解決に向けて実用的技術・技能を活用することができる</p>	(技能・表現)
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	
<p>カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。</p>	
<p>1) 豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、総合的な共通教育として、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。</p>	(関心・意欲・態度)
<p>2) 工学的諸問題を多面的にとらえ、論理的な課題解決に向けた力を身に付けるために、学部共通教育の科目群として、科学教育科目群、数学教育科目群、情報教育科目群及び環境教育科目群を配置する</p>	(思考・判断)
<p>3) 工学部を構成する各学科・系のディプロマ・ポリシーを達成すべく、ものづくりあるいは環境に関する専門教育科目を配置する</p>	(知識・理解)
<p>4) 各学科・系の業務分野における実践力の発揮につながる実用技術・技能科目を配置する</p>	(技能・表現)
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	
<p>人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。</p>	
<p>大学の理念・目標に基づき、技術教育を通じて専門知識を伸ばし、科学技術の発展や持続可能な社会形成に寄与する、技術社会の中核を担う自立した技術者の育成を工学部の教育方針とする。</p>	
<p>1) 豊かな人間性と常識をもち、社会で意欲的に活躍できる技術者を目指す人</p>	(関心・意欲・態度)
<p>2) 工学的諸問題を多面的に考え、論理的に課題解決ができる技術者を目指す人</p>	(思考・判断)
<p>3) ものづくりあるいは環境に関する専門教育科目を意欲的に学ぼうという人</p>	(知識・理解)
<p>4) 実用技術・技能の習得に意欲的な人</p>	(技能・表現)

工学部 学部共通科目			学習・教育目標				
区分	科目番号	科目名	単位数	1	2	3	4
学部共通科目	EX101	工学概説	2	○		○	○
	EX115	デザイン学概説	2		○		
	EX116	京築学	2	○			
	EX102	工学実験	1	○	○		○
	EX119	基礎数理学	2			○	
	EX120	基礎物理学S	2			○	
	EX121	基礎物理学	2			○	
	EX122	物理学	2			○	
	EX123	線形代数学 I S	2			○	
	EX124	線形代数学 I	2			○	
	EX125	線形代数学 II S	2			○	
	EX126	線形代数学 II	2			○	
	EX127	微分積分学 I S	2			○	
	EX128	微分積分学 I	2			○	
	EX129	微分積分学 II S	2			○	
	EX130	微分積分学 II	2			○	
	EX311	微分積分学 III S	2			○	
	EX312	微分積分学 III	2			○	
	EX313	統計学S	2			○	
	EX314	統計学	2			○	
	EX303	常微分方程式	2			○	
	EX501	代数学 I	2			○	
	EX502	代数学 II	2			○	
	EX503	幾何学 I	2			○	
	EX504	幾何学 II	2			○	
	EX508	確率・統計 I	2			○	
	EX509	確率・統計 II	2			○	
	EX506	システム工学	2			○	
	EX310	情報メディア論	2			○	
	EX111	基礎プログラミング I	2			○	○
	EX305	数値解析	2			○	○
	EX112	環境学概論	2	○			
	EX507	非破壊検査概論	2			○	○
	EX901	地域志向インターンシップ	2	○	○	○	○
	EX903	工学セミナー	2		○	○	
	EX904	デザインセミナー	2	○			○
EX902	企業実習	1~2	○	○	○	○	

総合システム工学科
教育研究上の目的
<p>本学の建学の理念、学部目的に基づき、総合システム工学(機械、機械設計、設備保全、電気電子、知能制御、情報工学、土木環境)に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(1))</p>
人材養成像
<p>総合システム工学(機械、機械設計、設備保全、電気電子、知能制御、情報工学、土木環境)に関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得し、幅広い視野を持つ総合性を備えた人間性豊かな高度専門職業人を養成する。(学則第2条の3(1))</p>
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
(学部の基本的ポリシーと同じ)
<p>1) 豊かな人間性を持った倫理観、社会性に富む技術者を目指して、次の能力を修得する。(関心・意欲・態度)</p> <p>1-1) 人間と社会との関わりを幅広く理解することができる。</p> <p>1-2) 総合システム工学技術と自然環境との関わりを理解し、自らの見解を形成することができる。</p> <p>2) 自信と気力に満ち、創意工夫力に富む技術者を目指して、次の能力を修得する。(思考・判断)</p> <p>2-1) 自主的、継続的にキャリア形成に取り組むことができる。</p> <p>2-2) 計画的に進め、創意・工夫して問題の解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>3) 総合システム工学に関する基礎力に富む技術者を目指して、次の能力を修得する。(知識・理解)</p> <p>3-1) 数学や現代科学に関する基礎力を備え、応用することができる。</p> <p>3-2) 総合システム工学の主要な専門分野に関する基礎力を備え、応用することができる。</p> <p>3-3) 総合システム工学の技術動向を継続的に学び、課題解決につなぐことができる。</p> <p>4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を目指して、次の能力を修得する。(技能・表現)</p> <p>4-1) 総合システム工学の基礎的な実務的技術力を備え、課題解決に活用することができる。</p> <p>4-2) 総合システム工学に関する設計および解析力を活用することができる。</p> <p>4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。</p>
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。
<p>1) 豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。 --- (関心・意欲・態度)</p> <p>2) 自信と気力に満ち、創意工夫力に富む技術者を育成するために、各年次に専門性への興味関心を高め、学習意欲を高めることができるよう、導入科目や応用科目群を配置する。 --- (関心・意欲・態度)</p> <p>3) 総合システム工学に関する基礎力に富む技術者を育成するために必要な科目群を配置する。1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 --- (思考・判断) --- (知識・理解)</p> <p>4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。 --- (技能・表現)</p>
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)
人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。
<p>工学部のアドミッション・ポリシーに従って、技術社会の中核を担う自立した技術者を目指す学生を受け入れる。</p> <p>1-1) 豊かな人間性を持った倫理観、社会性に富む技術者を目指している人。</p> <p>1-2) 総合システム工学の知識・技術に強い関心・興味を持ち、意欲を持って学ぼうとしている人。特に、安全、安心、快適で豊かな社会を構築する知識・技術を修得し、技術社会の中核を担う自立した総合システム工学技術者を指す人。</p> <p>1-3) 責任感・協調性を持ち、個性あふれる人。</p> <p>1-4) サークル活動など活動力、指導力に富む人。</p> <p>2-1) 総合システム工学と自然・社会との関わりを総合的に考えることができる技術者を指している人。</p> <p>2-2) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。</p> <p>3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。</p> <p>4-1) 実務力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。</p>

総合システム工学科(機械工学系)	
教育研究上の目的	(系の目的は、学科の目的と同じ)
大学、学部、学科の目的に沿って、機械工学に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。	
人材養成像	(系の人材育成像は、入試要項に記載されているこれまでのDPを転記)
大学、学部、学科の人材養成目標に沿うと共に、以下の専門性に関する知識・能力を備えた技術者を養成する。 ・広く、産業や生活を支える機械や装置などの設計・開発および製造等に関わる知識・技術。 ・機械工学系技術者として第一線で活躍できる実務的技術。	
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
(学部の基本的ポリシーと同じ)	
1) (関心・意欲・態度) 1-1) 機械工学の社会に果たす役割を幅広く理解することができる。 1-2) 機械系技術者としての倫理観や社会貢献について理解し、資質の向上に取り組むことができる。 2) (思考・判断) 2-1) さまざま業種における機械系技術者の役割を理解し、自らの将来設計に取り組むことができる。 2-2) 開発、設計、製造、管理等、創意・工夫してシステム的な問題解決に取り組むことができる。 3) (知識・理解) 3-1) 数学や現代科学に関する基礎力を備え、機械工学へ応用する事ができる。 3-2) 機械工学の基礎力を確実に習得し、幅広い分野への対応を図ることができる。 3-3) 新しい機械工学技術を主体的に学び、問題解決につなぐことができる。 4) (技能・表現) 4-1) 機械工学の基礎的な実務的技術力を備え、課題解決に活用できる。 4-2) CAD・CAE・CAM等の情報技術力を備え、課題解決に活用できる。 4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。	
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。	
(関心・意欲・態度) 1) 豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。 2) ものづくりの創意工夫力に富む技術者を育成するために、機械工学への興味関心がより高められるように導入科目や応用科目群を配置する。 (思考・判断), (知識・理解) 3) 機械工学の基礎力に富む技術者を育成するために、1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 (技能・表現) 4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む機械系技術者を育成するため、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。 ---	
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	
人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。	
機械工学系では、モノづくりの基礎となる設計や製造に関する基礎と応用技術を修得して、機械設計や機械製造および機械設備の施工・管理業務など幅広い分野で活躍する機械技術者の育成を目的として、次のような学生が入学することを求めています。	
1-1) モノづくりを通じた技術者として社会貢献を目指している人。 1-2) 機械工学の知識・技術に強い関心・興味を持っている人。特に、機械装置の設計・開発および製造等に関する知識・技術を修得し、産業や生活を支える多様な分野で、機械技術を活用する技術者を目指す人。 1-3) 責任感・協調性を持ち、モノづくりに意欲的な人。 1-4) サークル活動などに取り組み、個性あふれる人。	
2-1) 機械工学を通してよりよい社会の創造を総合的に考える技術者を目指している人。 2-2) モノづくりへの意欲、学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。	
3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。	
4-1) 機械系技術者としての実務力、情報技術活用力、表現力を高めようとする人。	

総合システム工学科 機械工学系			学習・教育目標											
区分	科目番号	科目名	単位数	1		2		3			4			
				1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	
専門 教育 科目	1G101	ものづくり演習Ⅰ	2			○	○		○			○		
	1G102	ものづくり演習Ⅱ	2			○	○		○			○		
	1G103	計測工学	2					○	○					
	1G104	機械工作Ⅰ	2						○					
	1G105	機械工作Ⅱ	2						○					
	1G106	読図	2						○					
	1G107	設備保全工学	2						○					
	1G108	CADⅠ	2										○	
	1G301	CADⅡ	2										○	
	1G302	機械製図Ⅰ	2						○					
	1G303	デジタルエンジニアリング	2										○	
	1G304	材料力学Ⅰ	2						○	○				
	1G305	機械力学Ⅰ	2						○	○				
	1G306	電気工学Ⅰ	2							○				
	1G307	CAE	2										○	
	1G308	機械材料Ⅰ	2						○	○				
	1G309	機械要素Ⅰ	2						○	○				
	1G310	流体力学Ⅰ	2							○				
	1G311	工業熱力学Ⅰ	2							○				
	1G312	制御工学Ⅰ	2							○				
	1G501	機械製図Ⅱ	2							○				
	1G502	機構学	2							○				
	1G503	機械材料Ⅱ	2							○				
	1G504	材料力学Ⅱ	2							○				
	1G505	制御工学Ⅱ	2							○				
	1G506	電気工学Ⅱ	2								○			
	1M501	機械要素Ⅱ	2						○	○				
	1M502	機械力学Ⅱ	2							○				
	1G507	機械工学実験	2										○	
	1G508	機械設計製図	2							○				
	1G509	シーケンス制御	2						○	○				
	1G510	ロボット工学	2						○	○				
	1G511	自動車工学	2								○			
	1G512	工業英語	2	○	○									
	1M503	総合演習Ⅰ	2							○		○		
	1M504	総合演習Ⅱ	2							○		○		
1M505	流体力学Ⅱ	2							○					
1M506	工業熱力学Ⅱ	2							○					
1G513	熱・流体機械概論	2							○					
1G514	自動車生産技術	2								○				
1M001	機械工学地域プロジェクト	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G901	総合システムゼミナール	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G991	卒業研究Ⅰ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G992	卒業研究Ⅱ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

総合システム工学科(機械設計工学系)
教育研究上の目的
<p>本学の建学の理念、学部目的に基づき、機械設計に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(1))</p>
人材養成像
<p>機械設計に関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得し、幅広い視野を持つ総合性を備えた人間性豊かな高度専門職業人を養成する。(学則第2条の3(I))</p>
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
(学部の基本的ポリシーと同じ)
<p>1) 豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する技術者を目標として、次の能力を修得する。(関心・意欲・態度)</p> <p>1-1) 技術者としての倫理観を備え、人間と社会との関わりを幅広く理解することができる。</p> <p>1-2) 機械設計の産業界での役割を認識し、新しいモノづくりや未来社会の発展に貢献できる。</p> <p>2) 幅広い職業人として多岐にわたる産業基盤での実践的専門技術者を目標として、次の能力を修得する。(思考・判断)</p> <p>2-1) 設計製造現場での実践的技術と基礎理論をつなぐことができる。</p> <p>2-2) 多岐にわたる産業基盤の諸課題に創意工夫して総合的に取り組むことができる。</p> <p>3) 機械設計に関する基礎力に富む技術者を目標として、次の能力を修得する。(知識・理解)</p> <p>3-1) デジタル制御やデジタル計測などに、数学や現代科学に関する基礎力を応用することができる。</p> <p>3-2) 機械設計およびその関連技術に関する基礎力を備え、新しいモノづくりに応用することができる。</p> <p>3-3) 製品の企画、設計、製造、販売、保守をコンピュータで行う新しい技術を自ら学び、課題解決につなぐことができる。</p> <p>4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を目標として、次の能力を修得する。(技能・表現)</p> <p>4-1) 機械設計およびその関連技術に関する多岐にわたる実践的技術力を備え、課題解決に適用することができる。</p> <p>4-2) 3次元CADを中核とした製品の設計(CAD)・解析(CAE)・生産(CAM)に関する情報技術力を備え、課題解決に活用することができる。</p> <p>4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。</p>
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。
<p>1) 幅広い視野と豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、専門教育科目の他、教養教育科目、工学部共通科目群を配置する。 --- (関心・意欲・態度)</p> <p>2) 多岐にわたる産業基盤に対応し、創意工夫力に富む幅広い実践的技術者を育成するために、各年次に専門性への興味関心を高め、学習意欲を高めることができるよう、導入科目や応用科目群を配置する。 --- (関心・意欲・態度)</p> <p>3) 機械設計に対する基礎力に富む技術者を育成するために実践技術の習得を通して基礎理論を学習できるように、基礎科目群を配置する。1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 --- (思考・判断) --- (知識・理解)</p> <p>4) 機械設計に対する実践的技術力を備え、情報技術活用力、表現力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。特にCAD関連科目はコア科目群として1年から3年まで継続的に配置する。また、企業内教育の機会を取り入れる「OJT(On the Job Training: 職場内訓練)」的科目群を配置する。 --- (技能・表現)</p>
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)
人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。
<p>機械設計工学系では、北部九州に集積する自動車・ロボットの研究開発等に高い関心を持ち、コンピュータ内に創成した工業製品モデルを使った開発・設計・生産技術に関する知識修得を目指し、3次元CAD利用技術者の資格取得と共に、企業で即戦力となる機械設計に関する実践的技術者の育成を目的としており、次のような人の入学を求めている。</p> <p>1-1) 幅広い視野と豊かな人間性を備えた技術者を目標としている人。</p> <p>1-2) 機械設計に関する知識・技術に強い関心・興味を持ち、意欲を持って学ぼうとしている人。</p> <p>1-3) 責任感・協調性を持ち、個性に富む人。</p> <p>1-4) ロボットなどの科学技術活動やサークル活動などに積極的に取り組む活動的な人。</p> <p>2-1) 機械と自然・社会との関わりを総合的に考えることができる技術者を目標としている人。</p> <p>2-2) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。</p> <p>3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。</p> <p>4-1) 機械設計の実践的技術力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。</p>

総合システム工学科 機械設計工学系			学習・教育目標											
区分	科目番号	科目名	単位数	1		2		3			4			
				1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	
専門教育科目	1G101	ものづくり演習Ⅰ	2			○	○		○			○		
	1G102	ものづくり演習Ⅱ	2			○	○		○			○		
	1G103	計測工学	2					○	○					
	1G104	機械工作Ⅰ	2						○					
	1G105	機械工作Ⅱ	2						○					
	1G106	読図	2						○					
	1G107	設備保全工学	2						○					
	1G108	CADⅠ	2										○	
	1G301	CADⅡ	2										○	
	1G302	機械製図Ⅰ	2						○					
	1G303	デジタルエンジニアリング	2										○	
	1G304	材料力学Ⅰ	2						○	○				
	1G305	機械力学Ⅰ	2						○	○				
	1G306	電気工学Ⅰ	2							○				
	1D301	ものづくりワークショップ	2			○	○			○				
	1G307	CAE	2										○	
	1G308	機械材料Ⅰ	2						○	○				
	1G309	機械要素Ⅰ	2						○	○				
	1G310	流体力学Ⅰ	2							○				
	1G311	工業熱力学Ⅰ	2							○				
	1G312	制御工学Ⅰ	2							○				
	1G501	機械製図Ⅱ	2							○				
	1G502	機構学	2							○				
	1G503	機械材料Ⅱ	2							○				
	1G504	材料力学Ⅱ	2							○				
	1G505	制御工学Ⅱ	2							○				
	1G506	電気工学Ⅱ	2								○			
	1G507	機械工学実験	2										○	
	1D501	CAD応用	2							○				
	1D502	ハードウェア・ソフトウェア	2							○				
	1D503	CAD実践	2							○				
	1D504	実践プログラミング	2							○				
	1G508	機械設計製図	2							○				
	1G509	シーケンス制御	2							○	○			
	1G510	ロボット工学	2							○	○			
	1G511	自動車工学	2									○		
	1G512	工業英語	2	○	○									
	1G513	熱・流体機械概論	2							○				
	1G514	自動車生産技術	2									○		
	1D001	機械設計工学地域プロジェクト	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1G901	総合システムゼミナール	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G991	卒業研究Ⅰ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G992	卒業研究Ⅱ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

総合システム工学科(設備保全工学系)	
教育研究上の目的	<p>本学の建学の理念、学部目的に基づき、設備保全に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(1))</p>
人材養成像	<p>大学、学部、学科の人材養成目標に沿った幅広い視野を持つ総合性を備えた人間性豊かな高度専門職業人を養成する。特に、産業を支える工業設備や機械、装置の保全に関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得し、設備保全技術者として活躍できる実務型の技術者を養成する。</p>
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	<p>(学部の基本的ポリシーと同じ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する技術者を目指して、次の能力を修得する。(関心・意欲・態度) <ol style="list-style-type: none"> 1-1) 技術者としての倫理観を備え、人間と社会との関わりを幅広く理解することができる。 1-2) 産業界での役割を認識し、機械・工業設備の保全・改良を通して、新しいモノづくりや未来社会の発展に貢献できる。 2) 幅広い職業人として多岐にわたる産業基盤での実践的専門技術者を目指して、次の能力を修得する。(思考・判断) <ol style="list-style-type: none"> 2-1) 工業設備、機械、装置を常に健全な状態に維持するための知識・理論を活用できる。 2-2) 生産現場において専門的な実践的技術と実践的な課題・解決方法をつなぐことができる。 2-3) 多岐にわたる産業基盤の諸課題に創意工夫して総合的に取組むことができる。 3) 設備保全に関する基礎力に富む技術者を目指して、次の能力を修得する。(知識・理解) <ol style="list-style-type: none"> 3-1) 生産分野において、数学や現代科学に関する基礎力を応用することができる。 3-2) 設備保全およびその関連技術に関する基礎力を備え、工業設備、機械、装置を常に健全な状態に保つために応用することができる。 3-3) 工業設備、機械、装置を常に健全な状態に保つための新しい技術を自ら学び、課題解決につなぐことができる。 4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を目指して、次の能力を修得する。(技能・表現) <ol style="list-style-type: none"> 4-1) 機械・電気全般およびその関連技術に関する基礎的な技術力を備え、課題解決に適用することができる。 4-2) 機械保全、検査・診断、機械加工に対する実践的な技術力を備え、課題解決に活用することができる。 4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	<p>カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 幅広い視野と豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、専門教育科目の他、教養教育科目、工学部共通科目群を配置する。 --- (関心・意欲・態度) 2) 多岐にわたる産業基盤に対応し、創意工夫力に富む幅広い実践的技術者を育成するために、各年次に専門性への興味関心を高め、学習意欲を高めることができるよう、導入科目や応用科目群を配置する。 --- (関心・意欲・態度) 3) 設備保全に対する基礎力に富む技術者を育成するために実践技術の習得を通して基礎理論を学習できるように、基礎科目群を配置する。1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 --- (思考・判断) --- (知識・理解) 4) 設備保全に対する実践的技術力を備え、情報技術活用力、表現力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。また、機械保全技術、機械加工技術、溶接技術、非破壊検査技術に関する資格取得を目指す教育を行う。 --- (技能・表現)
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	<p>人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。</p> <p>設備保全工学系では、北部九州に集積する様々な産業群に高い関心を持ち、工業設備、機械、装置を診断し、常に健全な状態に保つことができるプラント、機械の専門医として活躍できる実践的技術者の育成を目的としており、次のような人の入学を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1) 幅広い視野と豊かな人間性を備えた技術者を目指している人。 1-2) 専門の知識・技術に強い関心・興味を持ち、意欲を持って学ぼうとしている人。 1-3) 責任感・協調性を持ち、個性に富む人。 1-4) 機械保全技術、機械加工技術、溶接技術、非破壊検査技術などの関連資格の取得に積極的に取組む活動的な人。 2-1) 機械と自然・社会との関わりを総合的に考えることができる技術者を目指している人。 2-2) 環境に優しい生産や持続可能な社会の実現に関心がある人。 2-3) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。 3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。 4-1) 設備保全に関する実践的技術力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。

総合システム工学科 設備保全工学系			学習・教育目標												
区分	科目番号	科目名	単位数	1		2			3			4			
				1	2	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
専門 教育 科目	1G101	ものづくり演習Ⅰ	2			○	○			○			○		
	1G102	ものづくり演習Ⅱ	2			○	○			○			○		
	1G103	計測工学	2						○	○					
	1G104	機械工作Ⅰ	2							○					
	1G105	機械工作Ⅱ	2							○					
	1G106	読図	2							○					
	1G107	設備保全工学	2							○					
	1G108	CADⅠ	2											○	
	1G301	CADⅡ	2											○	
	1G302	機械製図Ⅰ	2							○					
	1G303	デジタルエンジニアリング	2											○	
	1G304	材料力学Ⅰ	2						○	○					
	1G305	機械力学Ⅰ	2						○	○					
	1G306	電気工学Ⅰ	2							○					
	1S301	機械保全Ⅰ	2												○
	1S302	機械加工Ⅰ	2												○
	1S303	溶接技術Ⅰ	2												○
	1G307	CAE	2												○
	1G308	機械材料Ⅰ	2							○	○				
	1G309	機械要素Ⅰ	2							○	○				
	1G310	流体力学Ⅰ	2							○					
	1G311	工業熱力学Ⅰ	2							○					
	1G312	制御工学Ⅰ	2							○					
	1S304	機械保全Ⅱ	2												○
	1S305	機械加工Ⅱ	2												○
	1S306	溶接技術Ⅱ	2												○
	1G501	機械製図Ⅱ	2								○				
	1G502	機構学	2								○				
	1G503	機械材料Ⅱ	2								○				
	1G504	材料力学Ⅱ	2								○				
	1G505	制御工学Ⅱ	2								○				
	1G506	電気工学Ⅱ	2										○		
	1G507	機械工学実験	2											○	
	1S501	機械保全Ⅲ	2												○
	1S502	機械加工Ⅲ	2												○
	1S503	溶接技術Ⅲ	2												○
	1G508	機械設計製図	2									○			
	1G509	シーケンス制御	2								○	○			
	1G510	ロボット工学	2								○	○			
	1G511	自動車工学	2										○		
	1G512	工業英語	2	○	○										
	1S504	非破壊検査技術	2												○
1G513	熱・流体機械概論	2									○				
1G514	自動車生産技術	2										○			
1S001	設備保全工学地域プロジェクト	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G901	総合システムゼミナール	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G991	卒業研究Ⅰ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1G992	卒業研究Ⅱ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

総合システム工学科(電気電子工学系)	
教育研究上の目的	(系の目的は、学科の目的と同じ)
大学、学部、学科の目的に沿って、電気電子工学に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。	
人材養成像	(系の人材育成像は、入試要項に記載されているこれまでのDPを転記)
大学、学部、ならびに、学科の人材養成目標に沿うと共に、以下の専門性に関する知識・能力を備えた技術者を養成する。 ・情報技術を備えた電気電子工学技術 ・電気電子工学に関する技術者として第一線で活躍できる実務的技術	
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
(学部の基本的ポリシーと同じ)	
1)(関心・意欲・態度) 1-1) 電気電子工学に関する技術者としての倫理観を養い、社会的責任を幅広く理解することができる。 1-2) 電気電子工学の技術と社会との関わりを理解し、自らの見解を形成することができる。 2)(思考・判断) 2-1) 電気電子工学に関する技術者として、資格取得や実務的技術力の習得に主体的に取り組むことができる。 2-2) 電気電子工学に関わる製品やシステムを総合的にとらえて問題解決に対応できる。 3)(知識・理解) 3-1) 数学や現代科学の基礎的知識を、電気電子系工学の各分野に応用できる。 3-2) 電気電子工学の専門知識と情報技術の習得を通して、幅広い分野へ対応できる。 3-3) 新しい電気電子技術動向を主体的に学び、課題解決につなぐことができる。 4)(技能・表現) 4-1) 電気電子工学の基礎的な実務的技術力を備え、課題解決に活用することができる。 4-2) 電気回路および電子回路の設計および解析力を活用することができる。 4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。	
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。	
(関心・意欲・態度) 1)豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。 2) 製品開発やシステム管理などの実務力に富む技術者を育成するために、導入科目や応用科目群を配置する。 (思考・判断)、(知識・理解) 3) 電気電子工学に関する基礎力修得に必要な科目群を配置する。1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 (技能・表現) 4) 実務力、情報技術活用力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。	
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	
人材養成の目的を達成するため、以下の資質を備えている入学者を受け入れる。	
電気電子工学系では、より高度に専門化していく電気電子工学の技術を身につけ、社会の第一線で活躍する情報技術を備えた電気電子工学に関する技術者を育成することを目的としていて、次のような人が入学することを求めています。	
1-1) 豊かな人間性を持った電気電子工学に関する技術者を目指している人。 1-2) 電気電子工学の知識・技術に強い関心・興味を持ち、社会の第一線で活躍する情報技術を備えた電気電子工学に関する技術者を指す人。 1-3) 責任感・協調性を持ち、個性あふれる人。 1-4) 科学技術活動など、サークル活動にも積極的に取り組む人。 2-1) 電気電子工学の技術と自然・社会との関わりを総合的に考える技術者を指している人。 2-2) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。 3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。 4-1) 電気電子工学に関する実務力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。	

総合システム工学科 電気電子工学系			学習・教育目標											
区分	科目番号	科目名	単位数	1		2		3			4			
				1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	
専門教育科目	2G101	電子計算機概論	2	○	○	○	○	○	○					
	2G102	基礎電気回路Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○				○	
	2G103	基礎電気回路Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○				○	
	2G104	情報処理応用	2	○	○	○	○	○	○					
	2E101	実践電気工学Ⅰ	2	○	○	○	○	○				○	○	
	2G301	電気基礎実験Ⅰ	2					○				○	○	○
	2G302	電子回路Ⅰ	2					○	○				○	
	2G303	メカトロニクス	2					○	○				○	
	2G304	基礎プログラミングⅡ	2						○					
	2R301	電気回路Ⅰ	2					○	○				○	
	2R302	電気磁気学Ⅰ	2					○	○					
	2R303	エネルギー変換	2						○					
	2E301	実践電気工学Ⅱ	2					○				○	○	
	2E302	実践電気工学演習Ⅰ	2					○				○	○	
	2G305	電気基礎実験Ⅱ	2					○				○	○	○
	2G306	電気電子計測	2					○	○					
	2G307	電子回路Ⅱ	2					○	○				○	
	2G308	制御システム工学	2					○	○					
	2E303	電気回路Ⅱ	2					○	○				○	
	2E304	電気磁気学Ⅱ	2					○	○					
	2E305	電力工学	2					○	○					
	2E306	実践電気工学演習Ⅱ	2					○				○	○	
	2G501	電子情報通信システムⅠ	2					○	○					
	2R501	過渡解析Ⅰ	2					○	○				○	
	2E501	パワーエレクトロニクス	2					○	○					
	2E502	高電圧工学	2					○	○					
	2E503	電気機器	2					○	○					
	2E504	電力伝送システムⅠ	2					○	○					
	2E505	電気設計製図	2						○				○	
	2E506	電気電子工学実験Ⅰ	2					○	○			○		○
	2E507	電気電子材料	2					○	○					
	2G502	電子情報通信システムⅡ	2					○	○					
	2R502	過渡解析Ⅱ	2					○	○				○	
	2E508	電子デバイス	2						○					
	2E509	電力伝送システムⅡ	2					○	○					
	2E510	電気電子工学実験Ⅱ	2					○	○			○		○
	2E511	電力発生工学	2						○					
	2E512	電気応用実験	2						○					○
	2E513	電気法規及び施設管理	2						○					
	2E001	電気電子工学地域プロジェクト	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2G901	総合システムゼミナール	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2G991	卒業研究Ⅰ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2G992	卒業研究Ⅱ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

総合システム工学科(知能制御工学系)	
教育研究上の目的	(系の目的は、学科の目的と同じ)
大学、学部、学科の目的に沿って、知能制御工学に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。	
人材養成像	(系の人材育成像は、入試要項に記載されているこれまでのDPを転記)
<p>大学、学部、学科の人材養成目標に沿うと共に、以下の専門性に関する知識・能力を備えた技術者を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気、電子、情報の技術についての総合的な応用技術 ・様々な制御理論、計算機応用技術を学修し、知的制御の技術者として第一線で活躍している実務的技術 	
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	(学部の基本的ポリシーと同じ)
<p>1)(関心・意欲・態度)</p> <p>1-1) 電気、電子、情報の総合的に応用した知能制御工学の人間と社会に果たす役割を幅広く理解することができる。</p> <p>1-2) 電気、電子、情報の総合的に応用した知能制御工学技術者としての倫理観を備え、社会の発展に貢献することができる。</p> <p>2)(思考・判断)</p> <p>2-1) 電気、電子、情報の総合的に応用した知能制御工学技術者としての資格取得や実務情報技術の習得に主体的に取り組むことができる。</p> <p>2-2) 電気、電子、情報の総合的に応用した知能制御工学技術者として、総合的に問題解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>3)(知識・理解)</p> <p>3-1) 数学や現代科学に関する基礎力を備え、知能制御工学技術に応用できる。</p> <p>3-2) 電気、電子、情報の基礎力を備え、様々な製品やサービス開発に応用することができる。</p> <p>3-3) 電気、電子、情報の総合的に応用した知能制御工学の技術動向を継続的に学び、課題解決につなぐことができる。</p> <p>4)(技能・表現)</p> <p>4-1) 電気、電子、情報の総合的に応用した知能制御工学の基礎的な実務的技術力を備え、課題解決に活用することができる。</p> <p>4-2) プログラミング、ハードウェア、様々な制御理論の解析力を活用することができる。</p> <p>4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。</p>	
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。	
<p>(関心・意欲・態度)</p> <p>1)豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。</p> <p>2) 古典制御から人工知能制御などの新しい制御理論を学修し、それをロボットなどに応用できる創意工夫力に富む技術者を育成するために、各年次に専門性への興味関心を高め、学習意欲を高めることができるよう、導入科目や応用科目群を配置する。</p> <p>(思考・判断)、(知識・理解)</p> <p>3) 知能制御工学に関する基礎力に富む技術者を育成するために、1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。</p> <p>(技能・表現)</p> <p>4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。</p>	
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	
人材養成の目的を達成するため、以下の資質を備えている入学者を受け入れる。	
<p>電気、電子、情報そして制御の知識を備え、これまでに無い新しい製品やサービスを開発する技術者の育成を目的として、次のような人が入学することを求めています。</p> <p>1-1) 豊かな人間性を持ったロボット・人工知能・制御技術者を目指している人。</p> <p>1-2) 最新の知的制御工学の知識・技術に強い関心・興味を持ち、第一線で様々な知的制御を応用した製品やサービスの創造を目指す人。</p> <p>1-3) 責任感・協調性を持ち、個性あふれる人。</p> <p>1-4) 科学技術活動など、サークル活動にも積極的に取り組む人。</p> <p>2-1) 制御理論、人工知能、ロボットと自然・社会との関わりを総合的に考えることができる技術者を目指している人。</p> <p>2-2) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。</p> <p>3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。</p> <p>4-1) 制御工学、人工知能応用に関する実務力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。</p>	

総合システム工学科 知能制御工学系			学習・教育目標												
区分	科目番号	科目名	単位数	1		2		3			4				
				1	2	1	2	1	2	3	1	2	3		
専門教育科目	2G101	電子計算機概論	2	○	○	○	○	○	○						
	2G102	基礎電気回路Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○				○		
	2G103	基礎電気回路Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○				○		
	2G104	情報処理応用	2	○	○	○	○		○						
	2Q101	基礎プログラミング演習	2			○	○		○	○	○				
	2G301	電気基礎実験Ⅰ	2					○				○	○	○	
	2G302	電子回路Ⅰ	2						○				○		
	2G303	メカトロニクス	2						○	○			○		
	2G304	基礎プログラミングⅡ	2						○						
	2R301	電気回路Ⅰ	2						○	○			○		
	2R302	電気磁気学Ⅰ	2						○	○					
	2R303	エネルギー変換	2							○					
	2Q301	コミュニケーション技術	2							○					
	2Q302	マルチメディア工学	2							○					
	2G305	電気基礎実験Ⅱ	2						○			○	○	○	
	2G306	電気電子計測	2						○	○					
	2G307	電子回路Ⅱ	2						○	○			○		
	2G308	制御システム工学	2						○	○					
	2Q303	プログラミング	2							○					
	2Q304	アルゴリズム設計	2			○				○			○		
	2Q305	ロボット工学	2	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
	2G501	電子情報通信システムⅠ	2						○	○					
	2R501	過渡解析Ⅰ	2						○	○			○		
	2Q501	情報構造	2							○					
	2Q502	システムソフトウェア	2							○					
	2Q503	論理設計	2						○	○			○		
	2Q504	コンピュータ工学	2							○					
	2Q505	組み込みシステム	2			○	○				○		○		
	2Q506	デジタル制御工学	2			○	○				○		○		
	2A501	知能制御工学実験Ⅰ	2						○	○		○		○	
	2G502	電子情報通信システムⅡ	2						○	○					
	2R502	過渡解析Ⅱ	2						○	○			○		
	2Q507	応用プログラミング	2							○					
	2Q508	画像処理	2						○	○					
2Q509	ソフトウェア工学	2							○						
2Q510	コンピュータネットワーク	2							○						
2Q511	人工知能	2	○	○		○	○	○	○	○	○				
2A502	知能制御工学実験Ⅱ	2						○	○		○		○		
2Q512	ハードウェア記述言語	2			○				○			○			
2A001	知能制御工学地域プロジェクト	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2G901	総合システムゼミナール	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2G991	卒業研究Ⅰ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2G992	卒業研究Ⅱ	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

総合システム工学科(情報工学系)	
教育研究上の目的	(系の目的は、学科の目的と同じ)
大学、学部、学科の目的に沿って、情報工学に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。	
人材養成像	(系の人材養成像は、入試要項に記載されているこれまでのDPを転記)
大学、学部、学科の人材養成目標に沿うと共に、以下の専門性に関する知識・能力を備えた技術者を養成する。 ・ハードウェアの知識を備えた実務情報技術 ・情報技術者として第一線で活躍できる実務的技術	
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
(学部の基本的ポリシーと同じ)	
1)(関心・意欲・態度) 1-1) 情報工学の人間と社会に果たす役割を幅広く理解することができる。 1-2) 情報処理技術者としての倫理観を備え、社会の発展に貢献することができる。 2)(思考・判断) 2-1) 情報処理技術者としての資格取得や実務情報技術の習得に主体的に取り組むことができる。 2-2) ハードウェアの知識を備えた情報処理技術者として、総合的に問題解決に向けて取り組むことができる。 3)(知識・理解) 3-1) 数学や現代科学に関する基礎力を備え、情報処理技術に応用できる。 3-2) ハードウェアの基礎力を備え、組み込みソフトウェアなどの開発に系統的に応用することができる。 3-3) 情報工学の技術動向を継続的に学び、課題解決につながるることができる。 4)(技能・表現) 4-1) 情報工学の基礎的な実務的技術力を備え、課題解決に活用することができる。 4-2) プログラミング技術およびハードウェアの解析力を活用することができる。 4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。	
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。	
(関心・意欲・態度) 1)豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。 2)ソフトウェア開発やシステム管理など創意工夫力に富む技術者を育成するために、各年次に専門性への興味関心を高め、学習意欲を高めることができるよう、導入科目や応用科目群を配置する。 (思考・判断)、(知識・理解) 3) 情報工学に関する基礎力に富む技術者を育成するために、1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 (技能・表現) 4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。	
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	
人材養成の目的を達成するため、以下の資質を備えている入学者を受け入れる。	
ハードウェアの知識を備えた実務情報技術者として活躍できる技術者の育成を目的としていて、次のような人が入学することを求めています。	
1-1) 豊かな人間性を持った実務情報技術者を目指している人。 1-2) 情報工学の知識・技術に強い関心・興味を持ち、ハードウェアの知識を備えた実務情報技術者を目指す人。 1-3) 責任感・協調性を持ち、個性あふれる人。 1-4) 科学技術活動など、サークル活動にも積極的に取り組む人。 2-1) 情報工学と自然・社会との関わりを総合的に考えることができる技術者を目指している人。 2-2) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。 3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。 4-1) 情報処理に関する実務力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。	

総合システム工学科 情報工学系			学習・教育目標												
区分	科目番号	科目名	単位数	1		2		3			4				
				1	2	1	2	1	2	3	1	2	3		
専門 教育 科目	2G101	電子計算機概論	2	○	○	○	○	○	○						
	2G102	基礎電気回路Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○				○		
	2G103	基礎電気回路Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○				○		
	2G104	情報処理応用	2	○	○	○	○		○						
	2Q101	基礎プログラミング演習	2			○	○		○	○	○	○			
	2I101	情報数学	2	○	○	○	○	○	○						
	2I102	情報技術Ⅰ	2	○	○	○	○		○			○			
	2G301	電気基礎実験Ⅰ	2						○			○	○	○	
	2G302	電子回路Ⅰ	2							○			○		
	2G303	メカトロニクス	2						○	○			○		
	2G304	基礎プログラミングⅡ	2							○					
	2Q301	コミュニケーション技術	2							○					
	2Q302	マルチメディア工学	2							○					
	2I301	情報技術Ⅱ	2							○		○			
	2G305	電気基礎実験Ⅱ	2							○		○	○	○	
	2G306	電気電子計測	2							○	○				
	2G307	電子回路Ⅱ	2							○	○			○	
	2G308	制御システム工学	2							○	○				
	2Q303	プログラミング	2							○					
	2Q304	アルゴリズム設計	2				○			○				○	
	2G510	ロボット工学	2	○			○		○	○	○	○	○		
	2G501	電子情報通信システムⅠ	2							○	○				
	2Q501	情報構造	2							○					
	2Q502	システムソフトウェア	2							○					
	2Q503	論理設計	2							○	○			○	
	2Q504	コンピュータ工学	2							○					
	2Q505	組み込みシステム	2				○	○			○			○	
	2Q506	デジタル制御工学	2				○	○			○			○	
	2I501	情報工学実験Ⅰ	2							○	○		○		○
	2I502	情報理論	2				○	○		○	○		○		
	2G502	電子情報通信システムⅡ	2							○	○				
	2Q507	応用プログラミング	2								○				
	2Q508	画像処理	2							○	○				
	2Q509	ソフトウェア工学	2								○				
	2Q510	コンピュータネットワーク	2								○				
	2Q511	人工知能	2	○	○		○		○	○	○	○	○		
	2I503	情報工学実験Ⅱ	2							○	○		○		○
	2I504	データベース	2								○				
	2Q512	ハードウェア記述言語	2				○				○			○	
	2I001	情報工学地域プロジェクト	1	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
2G901	総合システムゼミナール	2	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
2G991	卒業研究Ⅰ	3	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
2G992	卒業研究Ⅱ	3	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	

総合システム工学科(土木環境工学系)	
教育研究上の目的	(系の目的は、学科の目的と同じ)
大学、学部、学科の目的に沿って、環境建設に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。	
人材養成像	(系の人材育成像は、入試要項に記載されているこれまでのDPを転記)
大学、学部、学科の人材養成目標に沿うと共に、以下の専門性に関する知識・能力を備えた技術者を養成する。 ・安全で快適な都市や地域づくり、都市景観整備、生活環境整備や防災等に関わる知識・技術 ・土木環境技術者として第一線で活躍できる実務的技術	
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	
(学部の基本的ポリシーと同じ)	
1) (関心・意欲・態度) 1-1) 土木環境工学の人間と社会、社会資本との関わりを幅広く理解することができる。 1-2) 土木環境工学による自然環境の保全などについて自らの見解を形成することができる。 2) (思考・判断) 2-1) 土木環境技術者として自主的、継続的にキャリア形成に取り組むことができる。 2-2) 計画的に進め、創意・工夫して問題の解決に向けて取り組むことができる。 3) (知識・理解) 3-1) 数学などの工学基礎力を備え、応用することができる。 3-2) 土木環境工学の専門分野に関する基礎力を備え、応用することができる。 3-3) 土木環境技術の新しい動向を自ら学び、総合的な課題解決につなぐことができる。 4) (技能・表現) 4-1) 土木環境工学の実務的技術力を備え、課題解決に活用することができる。 4-2) GIS、CAD等の情報技術力を備え、課題解決に活用することができる。 4-3) コミュニケーション力と基礎的語学力を備え、的確に表現できる。	
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。	
(関心・意欲・態度) 1) 豊かな人間性で倫理性、社会性に富む技術者を育成するため、基礎スキル科目、総合共通科目、専門基礎科目(基礎系・語学系)群を配置する。 2) 自信と気力に満ち、創意工夫力に富む技術者を育成するために、各年次に専門性への興味関心を高め、学習意欲を高めることができるよう、導入科目や応用科目群を配置する。 (思考・判断)、(知識・理解) 3) 土木環境工学に関する基礎力に富む技術者を育成するために必要な科目群を配置する。1年次に自然科学の基礎科目群と専門基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。 (技能・表現) 4) 実務力、情報技術活用力、表現力に富む技術者を育成するために、1年次、2年次に基礎的な実習科目群を、3年次に応用的な実習科目群を配置する。	
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	
人材養成の目的を達成するため、以下の資質を備えている入学者を受け入れる。	
土木環境工学系では、自然と調和した、安全、安心、快適で豊かな社会を構築する知識・技術を修得し、市民生活の基盤となる快適な環境、防災施設、都市・地域基盤施設、環境の修復等に関する技術者を育成することを目的として、次のような学生が入学することを求めている。	
1-1) 豊かな人間性を持った倫理観、社会性に富む技術者を目指している人。 1-2) 土木環境工学の知識・技術に強い関心・興味を持ち、意欲を持って学ぼうとしている人。 特に、安全、安心、快適で豊かな社会を構築する知識・技術を修得し、市民生活の基盤となる快適な環境、防災施設、都市・地域基盤施設、環境の修復等に関する技術者を目指す人。 1-3) 責任感・協調性を持ち、個性あふれる人。 1-4) 環境保全活動やサークル活動に積極的に取り組む人。 2-1) 土木環境工学と自然・社会との関わりを総合的に考える技術者を目指している人。 2-2) 学習力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。 3-1) 大学教育にふさわしい能力及び基礎学力を有している人。 4-1) 実務力、情報技術活用力、表現力を向上させようとする人。	

デザイン学部
教育研究上の目的
<p>本学の建学の理念に基づき、デザインに関する理論及び技術を教授研究し、科学技術の発展や健康で明るい社会形成に寄与する人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(2))</p>
人材養成像
<p>豊かな人間性と幅広い教養を備え、デザインに関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得した高度専門職業人を養成する。(学則第2条の3(2))</p>
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
<p>次の能力を身につけると共に、所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修めた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>1) デザインが豊かな人間生活の向上にどのような影響をあたえるのかを考えることができる。{関心・意欲・態度} 2) 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、解決するためのデザインを提供することができる(デザイン能力の修得) {思考・判断} 3) 身につけたデザインの知識や多様なデザインリソースをもとに、企画・評価・提案を行い、人間社会に必要な価値を創造することができる(デザインマネジメント能力の修得) {知識・理解} 4) デザインした成果やその試行のプロセスを説明し、説得するためのプレゼンテーション能力、人間社会において必要なコミュニケーション能力を有し、協調的・自立的・継続的に行動できる。(デザインコミュニケーション能力の修得) {技能・表現}</p>
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
<p>カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。</p> <p>1) 豊かな人間生活の向上に関心を持たせる科目を配置する。 2) デザイン能力修得のための科目の配置 2-1) デザインの本質を理解し、実践できる力を養う科目を配置する。 観察を通して課題を発見し、的確なアイデアを生み出す力を高める講義、演習を配置する。 2-2) アイデアを形にする力を身につける地域との交流プロジェクトや実践的な演習を配置する。 3) デザインマネジメント能力修得のための科目の配置 地域との交流プロジェクトやグループワークを通して、社会における多様な人的・物的資源を把握し、デザインの企画・評価・提案を行う能力を習得する科目を配置する。 4) デザインコミュニケーション能力修得のための科目の配置 4-1) 自分のデザインした成果物や、その製作プロセスをプレゼンテーションできる「技術習得」の科目を配置する。 4-2) 自分の意志を相手に確実に伝えるための「基礎知識」「思考力」「表現力」を養う科目を配置する。 4-3) デザインが人間社会に役立つものであることを体験し、デザインへの関心を高める科目を配置する。</p>
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)
<p>人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。</p> <p>本学デザイン学部では、人間生活に関心があり、物作りやデザインを通して人間生活の向上を実現することに努力し、素直に喜びを感じ、素直に感動出来る次のような人が入学することを求めています。</p> <p>1) 人として素直に感動できる人 2) ものづくりや、デザインによって人間生活の向上を実現することに関心があり、喜びを感じることのできる人 3) 多くの人と協働してものごとに取り組むことのできる基本的な言語コミュニケーション能力を有している人 4) 能動的、継続的にものごとに取り組む、学習する意欲のある人</p>

学部共通科目 デザイン学部			学習・教育目標				
区分	科目番号	科目名	単位数	デザイン学部			
				1	2	3	4
学部 共通 科目	DX107	デザイン学概説	2	○			
	DX108	工学概説	2	○	○		
	DX301	メディア文化論	2	○			
	DX302	ユニバーサルデザイン	2	○			
	DX303	人間工学Ⅰ	2	○		○	
	DX308	人間工学Ⅱ	2	○		○	
	DX304	映像メディア論	2	○		○	
	DX501	インテリアデザイン	2	○			
	DX502	景観デザイン	2	○			
	DX503	空間デザイン	2	○			
	DX104	現代科学入門	2	○			
	DX105	数学入門	2	○			
	DX109	美術史	2	○			
	DX110	デザイン史	2	○			
	DX111	デザイン心理学	2	○			
	DX309	生活と環境	2			○	
	DX310	企業経営論	2			○	
	DX311	北九州学	2			○	
	DX312	観光産業論	2			○	
	DX504	経営組織	2			○	
	DX505	会計学入門	2			○	
	DX506	時事問題研究	2			○	
	DX507	ビジネスと経済	2			○	
	DX112	経済学概論	2			○	
	DX903	工学セミナー	2	○			
	DX904	デザインセミナー	2	○			
DX901	地域志向インターンシップ	2		○		○	
DX902	企業実習	1~2		○		○	

建築学科
教育研究上の目的
<p>本学の建学の理念、学部目的に基づき、建築に関する理論及び技術を教授研究し、良好な社会環境・人間環境の形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(2))</p>
人材養成像
<p>建築に関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得し、幅広い教養を備えた人間性豊かな高度専門職業人を養成する。(学則第2条の3(2))</p>
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
<p>次の能力を身につけると共に、所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修めた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけることができる。(知識・理解) 2) 現代的課題を解決する能力をもつことができる。(思考・判断)(関心・意欲・態度) 3) 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能が習得できる。(知識・理解)(技能・表現) 4) 他分野とのコラボレーションができるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を習得できる。(技能・表現)
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
<p>カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 1年次から専門科目を配置すると共にデザイン全般の基礎を中心として幅広い知識と教養を身につけ、2年次から年次を追って、より専門的な知識を習得する科目を配置する。(知識・理解) 2) 専門教育科目は設計演習を中核に据え、建築士(1級建築士、2級建築士)資格取得に対応できる科目を配置する。(知識・理解) 3) 3年次、4年次になるにしたがいゼミ形式の少人数教育を導入し、専門領域への関心と意欲を高め、それぞれの進路に対応したより専門性の高い知識を習得する科目を配置する。(関心・意欲・態度) 4) 生活空間や建築、都市、環境をとりまく現代的課題を発見し、それ解決するデザインとプレゼンテーションの能力を養う科目を配置する。(思考・判断)(技能・表現)
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)
<p>人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。</p>
<p>建築学は工学、技術から芸術、社会、文化に及ぶ幅広い分野にまたがる創造的、総合的学問であり、職域も極めて多岐にわたっている。そのため建築学科では建築技術に関する基礎的専門知識の習得を基本に置きながら、卒業後、多方面で活躍できるよう幅広い教養と豊かな創造力を身につけた総合力のある人材を育成することを目的として、以下のような人を広く受け入れる。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1) 将来、社会的に影響のある仕事や生活空間を豊かにする仕事がしたいという夢を持ち、それを実現する意欲と情熱を燃やし続けることができる人(思考・判断) 2) 創造的なことが好きで、何かを達成するために体や手を動かすことが苦にならない人で、より確かなデザイン力を身につけたいと意欲のある人(技能・表現) 3) 生活空間や建築、都市、環境に興味や関心があり、学習する意欲のある人(関心・意欲・態度) 4) 入学後の修学に必要な基礎学力を持つ人(知識・理解)

建築学科				学習・教育目標				
区分	科目番号	科目名	単位数	1	2	3	4	
専門教育科目	建築設計系	DA104	建築デザイン基礎	4			○	
		DA302	建築設計Ⅰ	4			○	○
		DA306	建築設計Ⅱ	4		○	○	○
		DA502	建築設計Ⅲ	4		○	○	○
	建築計画系	DA106	住宅デザイン	2	○		○	
		DA309	建築計画Ⅰ	2	○		○	
		DA312	建築計画Ⅱ	2	○		○	
		DA501	都市地域計画	2	○		○	
		DA304	建築史Ⅰ	2	○		○	
		DA310	建築史Ⅱ	2	○		○	
		DX501	インテリアデザイン ※1	2	○		○	
	建築環境工学系	DA305	建築環境工学Ⅰ	2			○	
		DA311	建築環境工学Ⅱ	2			○	
	建築設備系	DA503	建築設備Ⅰ	2			○	
		DA508	建築設備Ⅱ	2			○	
	構造力学系	DA303	建築力学Ⅰ	2			○	
		DA313	建築力学Ⅰ演習	2			○	
		DA308	建築力学Ⅱ	2			○	
		DA314	建築力学Ⅱ演習	2			○	
		DA511	建築力学Ⅲ	2			○	
		DA512	建築力学Ⅳ	2			○	
	建築一般構造系	DA105	建築構法デザイン	2			○	
		DA504	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2			○	
		DA514	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2			○	
		DA505	鉄骨構造Ⅰ	2			○	
		DA515	鉄骨構造Ⅱ	2			○	
	建築材料系	DA301	建築材料概説	2			○	
		DA513	建築実験	2			○	
	建築生産系	DA307	建築施工Ⅰ	2			○	
		DA510	建築施工Ⅱ	2			○	
	建築法規系	DA507	建築法規	2			○	
	建築一般知識系	DA102	建築製図	4			○	
		DX503	空間デザイン ※1	2	○		○	
DX502		景観デザイン ※1	2	○		○		
DA516		3D・CAD	2			○		
DA509		建築測量学演習	4			○		
創作系	DA101	造形演習	4				○	
	DA107	2D・CAD	2				○	
総合系	DA903	建築ゼミナールⅠ	2	○	○			
	DA904	建築ゼミナールⅡ	2	○	○			
	DA506	建築総合演習	2	○				
	DA991	卒業研究Ⅰ	3	○	○			
	DA992	卒業研究Ⅱ	3	○	○		○	

※1 「空間デザイン」「景観デザイン」「インテリアデザイン」は学部共通科目。

情報デザイン学科
教育研究上の目的
<p>本学の建学の理念、学部ごとの目的に基づき、情報デザインに関する理論及び技術を教授研究し、良好な社会環境・人間環境の創造に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成することを目的とする。(学則第2条の2(2))</p>
人材養成像
<p>豊かな人間性と幅広い教養を備え、情報デザインに関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得した高度専門職業人を養成する。(学則第2条の3(2))</p>
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
<p>次の能力を身につけると共に、所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修めた学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p>
<p>1) 豊かな人間性と幅広い教養を備え、情報デザインの分野から社会に貢献するデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を目指して、次の能力を修得する。(関心・意欲・態度)</p> <p>1-1) 人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる</p> <p>1-2) アイデアや構想をデザイン化するための行動を計画することができる</p> <p>1-3) 地域活性化に対する情報デザインの役割を理解することができる</p> <p>2) 常に創意工夫を心がけ、社会的課題に積極的にチャレンジするデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を目指して、次の能力を修得する。(思考・判断)</p> <p>2-1) 自主的かつ継続的にキャリアを形成する取り組みができる</p> <p>2-2) 問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる</p> <p>3) 情報デザインに関する基礎力と豊かな発想力を持つデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を目指して、次の能力を修得する。(知識・理解)</p> <p>3-1) 情報デザインに関する基礎力を備え、人間社会の応用することができる</p> <p>3-2) 情報デザインや情報技術における基本理論・技術を理解することができる</p> <p>3-3) 情報デザインや情報技術に関する技術動向を継続的に学び、課題解決につなぐことができる</p> <p>4) 情報デザインに関わるスキルと、その展開力を有するデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を目指して、次の能力を修得する。(技能・表現)</p> <p>4-1) 人間社会にある様々な問題を発見し、デザインの実践や研究を通して解決することができる</p> <p>4-2) 構想・企画・立案・実践を通して、より高い付加価値を創造し社会で応用することができる</p> <p>4-3) 自己のアイデア・考えを的確に伝えるコミュニケーション力と基礎的な語学能力を身につけることができる</p>
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
<p>カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。</p>
<p>1) 豊かな人間性と幅広い教養を備え、情報デザインの分野から社会に貢献するデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を育成するため、メディア&コミュニケーションデザイン科目群、人間環境プロダクトデザイン科目群、情報システムデザイン科目群及び共通科目群等を配置する。(関心・意欲・態度)</p> <p>2) 何事にも積極的にチャレンジし、常に創意工夫を心がけるデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を育成するため、各年次に専門性への興味・関心を高め、学習意欲が向上するよう、導入科目や応用科目群を配置する。(思考・判断)</p> <p>3) 情報デザインに関する基礎力と豊かな発想力を持つデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を育成するために、必要な科目群を配置する。1年次に情報デザイン関連の基礎科目群を、2年次に主要な専門分野の基礎科目群を、3年次に応用科目群を、4年次に総合的科目群を配置する。(知識・理解)</p> <p>4) 情報デザインに関わるスキルと、その展開力を有するデザイナー、デザイン実務者及びデザイン力を身に着けた技術者を育成するために、1年次・2年次に基礎的な演習科目群を、3年次に応用的な演習科目群を配置する。(技能・表現)</p>
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)
<p>人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。</p> <p>情報デザイン学科ではデザイン技術に関する専門知識の習得を基本に、卒業後多方面で活躍できるよう幅広い教養と豊かな創造性を身につけた、総合力のある人材を育成することを目的とし、以下のような人を広く受入れる。</p>
<p>1) 創造的なことが好きで、何かを表現し達成するための努力を惜しまず、より確かなデザイン力を身に付けたいと意欲ある人 (関心・意欲・態度)</p> <p>2) デザインやものづくりに関心があり、デザインによって社会に貢献したいと目標や関心を持っている人(思考・判断)</p> <p>3) 人間社会・生活環境及びコミュニケーション環境を豊かにしたいという夢を持ち、それを実現する意欲と情熱を続けることができる人(知識・理解)</p> <p>4) 入学後の修学に必要な基礎学力を持つ人(技能・表現)</p>

情報デザイン学科			学習・教育目標											
区分	科目番号	科目名	単位数	1			2		3			4		
				1	2	3	1	2	1	2	3	1	2	3
専門教育科目	DD101	情報デザイン概論	2	○			○	○	○	○	○	○		
	DD104	コンピュータ概論	2							○	○			
	DD302	ネットワークとセキュリティ	2							○	○			
	DD502	データベース論	2							○	○			
	DD504	シミュレーション	2					○						
	DD325	データ処理	2							○				
	DD527	情報システムⅠ	2							○	○			
	DD528	情報システムⅡ	2							○	○			
	DD116	プログラミングⅠ	2							○				
	DD326	プログラミングⅡ	2							○				
	DD107	CAD演習Ⅰ	2					○	○		○			○
	DD117	WebデザインⅠ	2								○			
	DD506	マーケティング論	2											○
	DD507	広告論	2											○
	DD327	企画制作	2		○							○		○
	DD328	プレゼンテーション	2											○
	DD118	造形基礎[平面]	2		○									
	DD119	造形基礎[立体]	2		○									
	DD120	造形演習	2		○									
	DD121	デジタル画像基礎	2						○		○			
	DD122	デッサン	2		○									
	DD308	CAD演習Ⅱ	2					○	○		○	○		○
	DD123	グラフィックデザインⅠ	2								○			
	DD329	グラフィックデザインⅡ	2								○			
	DD330	3DCG演習Ⅰ	2								○			
	DD331	3DCG演習Ⅱ	2								○			
	DD312	WebデザインⅡ	2								○			
	DD114	写真・映像基礎	2								○			
	DD333	映像デザイン	2											
	DD316	ゲームデザインⅠ	2		○						○			
	DD317	ゲームデザインⅡ	2		○						○			
	DD323	プロダクトデザインⅠ	2	○				○	○	○				○
	DD518	プロダクトデザインⅡ	2		○			○	○		○			○
	DD529	プロダクトデザインⅢ	2			○		○	○			○	○	○
	DD334	情報デザイン演習Ⅰ	2	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	DD530	情報デザイン演習Ⅱ	2	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
DD523	プロジェクトⅠ	2	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
DD524	プロジェクトⅡ	2	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
DD903	ゼミナールⅠ	2						○				○	○	
DD904	ゼミナールⅡ	2						○				○	○	
DD531	デザイン総合演習	1					○						○	
DD991	卒業研究・デザインⅠ	3						○				○	○	
DD992	卒業研究・デザインⅡ	3						○				○	○	

教職に関係する科目のうち、教職に関する科目

教員養成のポリシー

- ・専門科目と教職科目の有機的な連携を図りながら、工業大学としての特徴を十分に活かした高度の専門性を有する教員を養成する。
- ・中学校から高校にかけての発達段階の異なる生徒に、分かりやすく知識や技術を伝え、その学びを支援しうる能力を有する教員を養成する。
- ・教育者としての職業モラルを身につけ、社会人としての人間力形成能力やコミュニケーション能力、自己啓発能力を有する教員を養成する。

ディプロマ・ポリシー

- 1) 豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や協調性をもち、主体的に行動できる能力を修得する。(関心・意欲・態度)
- 2) 現代の教育をめぐるさまざまな課題について理解し、適切な対応を考えることができる能力を修得する。(思考・判断)
- 3) 教科指導、生徒指導のための知識、教科等に関する専門的知識を修得する。(知識・理解)
- 4) 教育に関する理論等を活用し実践を展開する基礎技能、情報技術・コミュニケーション力を備え表現できる能力を修得する。(技能・表現)

教職科目				学習・教育目標				
区分	科目番号	科目名	単位数	1	2	3	4	
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	CT101	教職概論	2	○	○		
	教育の基礎理論に関する科目	CT102	教育学概論	2	○	○		
		CT103	教育心理学	2	○		○	
		CT301	教育制度学	2	○	○		
	教育課程及び指導法に関する科目	CT501	教育課程論	2		○	○	
		CT502	数学科教育法Ⅰ	2			○	
		CT503	数学科教育法Ⅱ	2			○	
		CT504	数学科指導法Ⅰ	2			○	
		CT505	数学科指導法Ⅱ	2			○	
		CT506	工業科教育法Ⅰ	2			○	
		CT507	工業科教育法Ⅱ	2			○	
		CT508	情報科教育法Ⅰ	2			○	
		CT509	情報科教育法Ⅱ	2			○	
		CT510	道德教育の研究	2		○	○	
		CT302	特別活動の研究	2		○	○	
	CT104	教育工学	2		○		○	
	生徒指導, 教育相談及び進路指導に関する科目	CT303	生徒・進路指導論	2		○	○	
		CT304	教育カウンセリング	2		○		○
	教育実習	CT511	教育実習Ⅰ	2				○
		CT512	教育実習Ⅱ	2				○
CT513		教育実習指導	1				○	
教育実践演習	CT514	教育実践演習(中・高)	2		○		○	
職業指導	CT515	職業指導Ⅰ	2			○		
	CT516	職業指導Ⅱ	2			○		

大学院 工学研究科
教育研究上の目的
工学生産系分野(生産システム分野)におけるエネルギー、制御、製造など、および自然・人間環境分野(環境システム分野)における制御、計画、デザインなどに関わる学術技術の理解と応用を教授研究し、幅広い技術システムへの対応能力を備え、地域の発展と文化・福祉に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。(大学院学則第2条および第6条)
人材養成像
幅広い社会的見識と工学系分野における柔軟な技術応用能力を育成し、課題の発見と対応・解決能力を備えた高度専門技術者、経営者、起業家を養成する。(大学院学則第2条の2) (1) 生産システム分野 エネルギー、制御、製造、設計などに関する高度な専門性を修得し、工学生産技術システムへの対応能力を備え、地域の発展と文化・福祉に貢献できる有為な人材を養成する。 (2) 環境システム分野 制御、計画、デザイン、防災などに関わる高度な専門性を修得し、自然・人間環境技術システムへの対応能力を備え、地域の発展と文化・福祉に貢献できる有為な人材を養成する。
ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
次の能力を身につけ、所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修めると共に修士論文の審査に合格した学生に修士(工学)の学位を授与する。 1) 幅広い社会的見識と豊かな人間性を兼ね備えた高度専門技術者を目指して、次の能力を修得する。(関心・意欲・研究態度) 1-1) 人間と社会との関わりおよび生産技術、環境技術の役割、位置づけを幅広く理解することができる。 1-2) 生産技術と地域、環境技術と自然・地域との関わりを正しく理解し、将来への洞察力を形成することができる。 1-3) 経営的判断能力を身につけ、生産技術、環境技術をマネジメントすることができる。 2) 創意工夫をしながら自己の研鑽を日々行う高度技術者を目指して、次の能力を修得する。(思考・判断・研究力) 2-1) キャリアアップに関して必要な事柄・目標を自ら設定し、実践することができる。 2-2) 物事を計画的に進めるとともに、創意工夫を凝らした課題解決法を考案し、実行することができる。 3) 生産技術、環境技術に関する専門的な知識を有する高度技術者を目指して、次の能力を修得する。(知識・理解) 3-1) 数理学、経営工学、3D技術、または、デザイン学に関する専門力を習得し、自らの研究に応用することができる。 3-2) 主要な生産システム分野、環境システム分野における専門力を備え、実践することができる。 3-3) 生産システム分野、環境システム分野における最新の技術動向を収集・蓄積し、それを利用して課題解決を図ることができる。 4) 生産システム分野、環境システム分野における実務能力、ICT活用力、表現力に富む高度技術者を目指して、次の能力を修得する。(技能・表現) 4-1) 生産システム分野、環境システム分野における実務能力を備え、それを課題の解決に活用することができる。 4-2) ICTに関する先進的な技術力を習得し、課題解決ならびに自らの研究に応用することができる。 4-3) ICTツール等を活用した効果的なコミュニケーション力を備え、自己の考えを的確に表現できる。
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
カリキュラムを以下の方針に基づいて編成する。 1) 幅広い社会的見識と豊かな人間性を兼ね備えた高度専門技術者を育成するために、人文系・社会系・経営工学系科目を含む共通科目群を配置する。 --- (関心・意欲・研究態度) 2) 創意工夫をしながら自己の研鑽を日々行う高度技術者を育成するために、主に1年次に専門基礎科目群を配置する。 --- (思考・判断・研究力) 3) 生産技術、環境技術に関する専門的な知識を有する高度技術者を育成するために必要な専門応用科目群を各年次に配置する。 --- (知識・理解) 4) 生産システム分野、環境システム分野における実務能力、ICT活用力、表現力に富む高度技術者を育成するために、演習科目群およびインターンシップ科目群を配置する。 --- (技能・表現)
アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)
人材養成の目的を達成するため、以下の方針に基づいて入学者を受け入れる。 1-1) 幅広い社会的見識と豊かな人間性を兼ね備えた高度専門技術者を目指している人。 1-2) 生産システム分野に関する高度な知識・技術に強い関心・興味を持ち、意欲的に研究する意思のある人。特に、エネルギー、制御、製造、設計に関わる高度専門知識・技術を修得し、自らの研究により市民生活の向上に寄与することを考えている人。 1-3) 環境システム分野に関する高度な知識・技術に強い関心・興味を持ち、意欲的に研究する意思のある人。特に、制御、計画、デザイン、防災に関わる高度専門知識・技術を修得し、自らの研究・デザインにより市民生活の安全向上や豊かな社会の実現に寄与することを考えている人。 1-4) 責任感・協調性があり、豊かな感性を持っている人。 1-5) プロジェクト活動や地域活動などに積極的に参加する意向のある人。 --- (関心・意欲・研究態度) 2-1) 生産技術と社会・地域との関わり、または、環境技術と自然・地域との関わりを総合的に考えることができる高度技術者を目指している人。 2-2) 研究力を高め、創意工夫力を向上させようとしている人。 --- (思考・判断・研究力) 3-1) 大学院における教育研究にふさわしい専門学力と一般教養を有している人。 --- (知識・理解) 4-1) 生産システム分野、環境システム分野における実務能力、ICT活用力、表現力を向上させようとする人。 --- (技能・表現)

大学院工学研究科(生産・環境システム専攻)			学習・教育目標											
			1			2		3			4			
区分	科目名	単位数	1	2	3	1	2	1	2	3	1	2	3	
共通科目	MC101	技術経営論	2			○			○			○		
	MC102	工業技術史特論	2	○	○									
	MC103	知的財産戦略論	2	○	○									
	MC104	生産管理システム論	2			○			○			○		
	MC105	情報工学特論Ⅰ	2										○	○
	MC106	環境経済学論	2		○									
	MC107	商品・技術開発戦略論	2		○	○								
	MC108	生物学特論	2	○										
	MC501	生産・環境システム特別研究	8						○	○	○	○	○	○
生産システム分野専門科目	MS101	材料工学特論Ⅰ	2					○	○	○				
	MS102	流体工学特論	2					○	○	○				
	MS103	機械力学特論	2					○	○	○				
	MS104	制御工学特論	2					○	○	○				
	MS301	精密加工特論	2					○	○	○				
	MS105	電気電子材料特論	2					○	○	○				
	MS106	電気応用工学特論	2					○	○	○				
	MS107	情報工学特論Ⅱ	2					○	○	○				
	MS108	電子デバイス特論	2					○	○	○				
	MS109	情報通信工学特論	2					○	○	○				
	MS302	半導体回路設計特論	2					○	○	○				
	MS110	ソフトウェア工学特論	2					○	○	○				
	MS111	電気エネルギー工学特論	2					○	○	○				
	MS112	生産システム特別講義	2	○	○		○	○				○	○	○
MS113	生産システム特別実習	2				○	○				○	○	○	
MS501	生産システム演習	4				○	○	○	○	○	○	○	○	
環境システム分野専門科目	ME101	地域環境工学特論	2		○			○	○	○				
	ME102	地域環境情報システム論	2		○			○	○	○				
	ME103	地盤工学特論	2					○	○	○				
	ME104	水圏環境工学特論	2					○	○	○				
	ME105	交通システム工学特論	2					○	○	○				
	ME301	都市環境マネジメント論	2					○	○	○				
	ME106	空間設計論Ⅰ	2					○	○	○				
	ME302	空間設計論Ⅱ	2					○	○	○				
	ME107	構造工学特論Ⅰ	2					○	○	○				
	ME303	構造工学特論Ⅲ	2					○	○	○				
	ME304	材料工学特論Ⅱ	2					○	○	○				
	ME108	空間デザイン史特論	2					○	○	○				
	ME109	学外構造系インターンシップ	1								○	○	○	○
	ME305	学外プロジェクト型インターンシップⅠ	4				○	○			○	○	○	○
	ME502	学外プロジェクト型インターンシップⅡ	4				○	○			○	○	○	○
	ME306	学内プロジェクト型インターンシップⅠ	4				○	○			○	○	○	○
	ME503	学内プロジェクト型インターンシップⅡ	4				○	○			○	○	○	○
	ME110	メディアデザイン特論Ⅰ	2						○	○	○			
	ME111	プロダクトデザイン特論	2						○	○	○			
	ME112	情報数学特論	2						○	○	○			
	ME113	メディアデザイン特論Ⅱ	2						○	○	○			
	ME114	ユニバーサルデザイン特論	2						○	○	○			
	ME115	エルゴノミクス特論	2						○	○	○			
ME307	情報デザイン特論	2						○	○	○				
ME116	環境システム特別講義	2	○	○		○	○				○	○	○	
ME117	環境システム特別実習	2				○	○				○	○	○	
ME501	環境システム演習	4				○	○	○	○	○	○	○	○	